



テュートリアル課題 健診で再検査に...

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2010
号	B5
発行年	2010-04-07
URL	http://hdl.handle.net/10470/30696

2010 年度 Block. 5

課 題 No. 2

課題名：健診で再検査に...

課題作成者：血液内科学

森 直樹

シート1

永田和夫さんは66歳の男性である。生来健康であったが、健康診断の血液検査で再検査になったため近くの内科を受診した。胃潰瘍のあとがあったこともわかった。

シート2

血液検査で白血球がさらに増加していたため、血液内科を受診するよう勧められ来院した。

シート3

血液内科初診時 体温36.4℃、呼吸数18/分、脈拍76/分 整、血圧126/72 mmHg。眼結膜に軽度の貧血が認められたが、リンパ節腫脹は認められなかった。CRP 0.17mg/dl (<0.33)。骨髓検査と腹部超音波検査を予約することになった。

シート4

5日後に施行された骨髄検査では顆粒球系の細胞が多数を占めていた。脾臓がはれていることもわかった。担当医から染色体の結果で診断が決まる、と説明があった。

シート5

染色体検査の結果、予想された染色体異常が認められたことがわかった。担当医から診断や治療方針について文書で説明を受け、経口薬が開始された。吐き気はなかったが少し手足がむくむようになった。担当医によるとこれまでの薬と比べてこの病気の白血球に特異性が高く、正常細胞への副作用も限定的とのことであった。

シート6

3ヶ月後に白血球数は順調に低下した。外来で知り合いになった同じ病気で通院している人の話だと10年前なら注射薬が主だったそうで、移植を受けた人も多かったらしい。自分はこのままでよいのか、少し不安になった。